

【事業名称】

(公社) 日中友好協会代表団

【開催日時】

2014年7月30日～8月2日

【開催場所】

中国北京市

【受け入れ機関】

中日友好協会

【事業内容】

酒井哲夫副会長を団長とする(公社)日中友好協会代表団7人が7月30日から8月2日まで北京を訪れ、対日友好団体・機関を相次いで表敬訪問した。30日午後には唐家璇・中日友好協会会長と会見し、日中関係や交流事業について意見交換を行った。唐会長は困難な状況の中でも「自信を持って民間交流を推進する」ことの重要性を強調。双方は、今後も一層の連携強化を図ることで一致した。



唐家璇会長と会見する酒井副会長(左)。7月30日、北京のケンピンスキーホテルで

協会代表団の訪中は6月に新役員体制になって以来初めて。できるだけ早い段階に交流のある対日友好団体・機関と意見を交わし、関係強化を図ることを目的として実施した。北京到着後、一行はまず市内のホテルで中日友好協会の唐会長と会見。唐会長は宇都宮徳一郎副会長や岡崎温理事長ら新役員に祝意を表した。また、かつて北京大学で岡崎理事長の父親から日本語の指導を受けた思い出話などを語った。

団長の酒井副会長は交流活動を通じ、協会に対する各地からの大きな期待を感じていることを伝え、「厳しい時こそ頑張って、災い転じて福となるよう、日中関係の改善に努めたい」と述べた。

一方の唐会長は、日中関係を悪化させる問題として突出している歴史認識や尖閣諸島の問題のほかに、「根深い相互信頼の欠如や国民感情の低下がある」と指摘。「来年は反ファシズム勝利・抗日戦争勝利70周年を迎える。今、関係を改善しなければ状況はさらに厳しくなる」と懸念した。

これに対し酒井副会長は幼少時代の戦争の体験を挙げ、「戦争の悲惨さはよく理解し

ている。アジアの平和と繁栄のために国民同士が手を取り合う日中関係を作らなければならない」と述べた。また、唐会長は日本の自治体の首長が各地の会長に就くなど「日中友好協会の構造も変化している」と述べ、協会に対しさらに自治体と緊密に協力し合う友好活動を行うよう求めた。唐会長は「民を以て官を促す」「地方を以て中央を促す」の2つ立場の重要性を説き、さらに「私たちは『改善』を望む同志。困難な時も友好の旗印を高く掲げ、未来に自信をもって『敢闘の精神』で民間交流を推進すべきだ」と強調した。

双方は協力関係を一層強化することで一致。まずは9月22日に共催して大阪で開く第14回日中友好交流会議の開催成功を目指す。

酒井副会長は「両国の友好発展について意見を交わし、交流の意義を互いに確認できた」と話した。なお、会見に先立っては王秀雲副会長、関立形秘書長らと交流会議や今後の共同事業についての実務協議を行った。

■北京10カ所を表敬訪問、精力的に交流

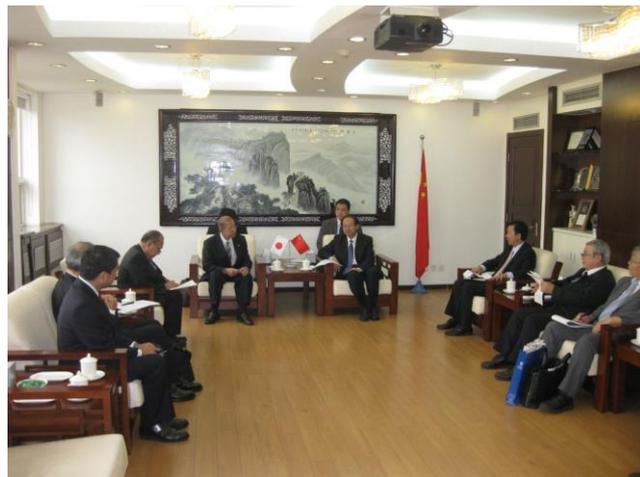
協会代表団7人は短い時間の中で精力的に活動し、関係機関との意思疎通を図った。

初日は唐家璇会長との会見、唐会長主催の歓迎宴を通じカウンターパートである中日友好協会との交流を一層深め、翌日からは教育省、文化省、中国宋慶齡基金会など協会活動にとって欠かせない重要な関係機関を表敬訪問した。

外務省では元駐日公使で5月にアジア局長に就任した孔鉉佑氏と

旧交を温めた。「知日派」で知られる孔局長は、中国駐在のマスコミの中で歴史知識の薄い若い日本人記者が増えていることを懸念、「(報道は) 両国関係を左右するという危機感を持って歴史を学んでほしい」と述べた。

一方、中華全国婦女連合会や中国人民外交学会など各分野の対日友好団体も訪れ協力関係を確認。在中国日本国大使館では、木寺昌人大使と最近の日中情勢について意見を交わした。北京市人民對外友好協会の田雁常務副会長との会見はNPO東京都日中会長の宇都宮徳一郎副会長が代表して応じ、東京都と北京市の首都交流の発展について話し合った。中華全国青年連合会では会見に応じた周長奎副主席に対し、協会などが10月に派遣する「1984年日本青年3千人訪中団」の30周年記念訪中団について西堀正司常務理事が説明。これを受け周副主席は「今後は中日友好協会を通じ、具体的な協力



中華全国青年連合会での会見の様

を検討したい」と応えた。

周副主席は 30周年事業について「当時訪中された先輩たちが子どもや孫を連れて再び中国を訪れるというアイデアがすばらしい」と評価した。協会代表団は今回、4日の日程で計 10 カ所を表敬訪問した。



孔鉉佑局長を囲む協会代表団。左から西堀正司常務理事、岡崎温理事長、酒井哲夫副会長、孔局長、橋本逸男副会長、宇都宮徳一郎副会長、大藪二郎常務理事、永田哲二常務理事